



涌小通信

知内町立涌元小学校

〈学校教育目標〉

よく考える子 思いやりのある子 健康な子

重点教育目標「粘り強く学び 最後までやり切る心をもった子供の育成」

令和4年6月28日発行

「子供を伸ばす保護者の育て方」

校長 柳澤 満

天候が不安定で運動会が実施できるか心配されましたが、何とか無事に6月5日（日）に運動会を開催することができました。今年度もコロナ渦の中で感染症対策をしながらの実施となりましたが、当日は会場の皆様のあたたかい声援と拍手で運動会を盛り上げていただきました。心よりお礼申し上げます。

さて、前回の学校だよりでは、かつて担任していて、活躍している教え子のことを紹介させていただきました。その後、地域の方から、「とても心に響きました。今度は『親の子育て』について、先生の経験や考えをお話していただきたい」というお声をいただきました。有難いことです。そこで、今回は保護者の皆さんに子育てについて話題を提供していきたいと思います。よろしくお願いします。

今回、お話するのは、私が最後に担任した女の子のお母さんのお話です。その女の子は函館市内の私立高校に特待生で進学しました。その子から今年のお正月に年賀状が届きました。そこには「卒業後は東京のある国立大学に推薦で合格しました。」という内容が書かれていました。

私はメールでその子のお母さんに「おめでとうございます。お母さん、どうやったら〇〇さんみたいに誰からも好かれ、目標に向かって努力を続けられる子に育つのですか？ 私の教えた子の中でも好感度No.1の教え子です。お母さんが子育てで大切にしていたことは何ですか。」という質問をしてみました。そしたら、次のようなメールが返ってきました。

先生が思うほど、立派なことは特に言っていないよ。ただ、どういう子に育てほしいかという私は〇〇が小さい頃から絶対に人のせいにするなど言ってきました。親、友達、先生、世の中のせいにしてたりすることで結局は自分がダメになっていくからです。

あとは、些細なことで人を責めないことも言ってきました。人を許すことで自分の器が広がり運も向上していくものだよと。いつも陰険な顔で眉間にしわを寄せて人に厳しいと近寄りたくない人になるし、そういった人は自分が困った時に誰も助けてくれないよ。そんな人生は寂しいだけだよと教えてきました。

心に突き刺さる深い言葉でした。私は彼女の小学校時代の笑顔に包まれた表情、いつも人に親切にしてあげたり、何か頼まれたときはひたむきに誠実に仕事をしていた姿を思い出しました。

今、世の中は「他人に厳しい」時代と言われます。自分がうまくいかない責任を他の何かのせいにしてたり、相手の失敗や非を執拗に攻撃したりすることが多くなっています。クレーム、SNSでの誹謗・中傷、様々な差別等が世の中に蔓延しています。

長年、いろいろな保護者の皆さんと出会っていると、「あっ、このお母さん、いい子育てをしているなあ。」と感じるときがあります。そこには、自分の子供の足元をしっかりと見つめながら子育てをしている姿がありました。そして、そういう環境で育ったお子さんこそ、人に恵まれ、人に支えられて、大きく成長しています。親が人間として大切な軸をしっかりと教えることこそ、子供の豊かな人生の何よりの土台となるのです。

長らく感染症の流行の中で何となく人々の心がギスギスしている時代背景だからこそ、人を支えること、人に支えられることを実感することが必要です。そのことこそ、子供が幸せな人生を送る原動力になっていきます。

最後になりましたが、私たち涌元小学校の職員も、子供たち一人ひとりの確かな成長を願って邁進してまいります。保護者・地域の皆様、今後とも涌元小学校をどうぞよろしくお願いいたします。